

「宗教間対話における法華経の意義」と題したウェブサイトを設けて四年になる。「世界における宗教間対話活動」と「非日本語による法華経・日蓮研究」の歴史と現状の掌握を目的としたものである。情報提供ではなく情報入手のためのウェブサイトである。

作成に際しては、一定の水準に達していると思われる組織・機構の公式サイトを網羅・整理し、可能な範囲で、そこから、純学術的な関連文献ならびに法華経・日蓮とグローバルな諸問題をあわせ論じた記述が見出せるよう試みた。この内、一例として、前者について、日蓮研究との関わりから検索を実行すると、次の所感が抱かれる。

◎研究書籍——広範囲に行なわれている法華経研究に対し、日蓮研究については、概容、邦文文献翻訳の経過が見られる。しかし、欧米の研究者の間で取り上げられてくる *Margaret Borsig, Leben aus der Lotus Blüte: Nichiren Shonin [...] Prophet der Gegenwart* (Freiburg: Amun Verlag, 1976) 及び *Lucia Dolce, Nichiren and the Lotus Sutra* (Leiden: Brill Academic

法華経・日蓮研究用ウェブサイト 三好楠二郎

Pub. 2006)等は、海外における独自の研究成果の一端として注視すべきであろう。

◎学位論文——英文・中文の文献八点が検出される。不受不施論争が扱われた未公開の Jeffrey Hunter, “The ‘fuju fuse’ controversy in Nichiren Buddhism” (University of Wisconsin, 1989) は、欧米で往々に参照されていながら、日本では殆ど知られていないのではないだろうか。また、中村元博士の指導によるとされる中文の何勁松「日蓮論」(中國社會科學院研究生院宗教學系、一九九一)は、公開されていないながら、同様の所感が抱かれる。

個人研究に資することを指向して設置したウェブサイトであり、その観点から、現状非公開にしているが、今後、その内容を充実させながら、グローバルな宗教間対話の文脈から自身のパースペクティブを広げつつ、法華経・日蓮研究の新たな可能性を開拓したいと考えている。

(みよし くすじろう／東洋哲学研究所委嘱研究員)